◇ ホームページ http://www.joubun.net/ ◇　　第99号 2025年4月25日発行

川崎市聴覚障害者情報文化センターだより

新年度のご挨拶

昨年度は当センターの事業に対して、様々なご支援を賜り、ありがとうございました。

1.「川崎市登録手話通訳者派遣事業」「川崎市登録要約筆記者派遣事業」の要綱が改訂されました(令和7年4月1日施行)。
具体的な内容は以下のとおりです。

① 現在、頸肩腕健康診断を受けるにあたり要した旅費の実費を支給していますが、それに加えて、頸肩腕健康診断参加費として2,400円支給することになりました。

② 現任研修への参加に要した旅費の実費を支給することになりました(上限あり)。

派遣事業実施要綱の改正は、当事者団体等の運動だけではなく、なによりも川崎市障害者社会参加・就労支援課のご理解・ご支援があったからこそです。この紙面をお借りし、お礼を申し上げます。

2. 令和8年3月末で川崎市聴覚障害者情報文化センターの指定期間が満了することに伴い、第5期(令和8年度～令和12年度)の指定管理者の募集があります。募集の告示は令和7年4月から5月、応募期日は6月頃を予定しているとのことです。当法人としては引き続き指定管理者の指定を受けるために応募します。

今年度も川崎市行政をはじめ、当事者団体、関係団体等と緊密な連携を図りながら、聴覚障害者福祉の向上を図るために頑張って参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

センター運営委員会

4月10日(木)にセンター運営委員会を開催しました。運営委員長の公益財団法人川崎市身体障害者協会、渡部委員長のご挨拶から始まりました。主な内容は令和7年度の事業計画と収支予算です。施設長と事務局から説明しました。主な報告としては、長年の懸案であった手話通訳派遣コーディネーターの欠員が補充され4名配置が実現したこと、令和7年度より頸肩腕健康診断参加費や現任研修の旅費が支給されることなどです。委員からは、手話通訳派遣コーディネーター欠員補充に伴う職員体制や派遣に関する予算についてのご質問と、難聴児の早期支援について情報提供をいただきました。また、東京2025デフリンピックや各団体の行事のご報告もいただきました。今年度は第4期指定管理の最終年です。いただいたご意見や情報を参考にして、5期目を目指し、当センター事業の充実を図っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

川崎市　市制100周年記念事業
NHK手話ニュースキャスターがやってきた　in　川崎

川崎市から共催でイベントを実施したいという申し入れがあり、当センターも主催者として関わりました。

日時:令和7年3月8日(土)

場所:川崎市高津市民館大ホール

主催:NHK横浜放送局、川崎市、川崎市聴覚障害者情報文化センター

応募多数であったため抽選となり、当日の参加人数は495人でした。大ホールのステージだけではなく、市民ギャラリーで「手話ニュースキャスター体験」「手話CGのPRブース」「手話シャワーのPRブース」「電話リレーサービスの体験&説明等のブース」「手話体験コーナー」「東京 2025 デフリンピックのパネル展示」「川崎市のPRコーナー」があり、参加者にとって楽しめるイベントであったと思います。

また、市民ギャラリーにおいても、参加者がスタッフとのコミュニケーションに支障がないよう手話通訳者、要約筆記者を配置しました。

ICT講座

1月19日(日)にICT講座「電話リレーサービス　練習会&登録会」を開催しました。

今回の講座では、電話リレーサービスにおける着信方法を体験していただきました。発信の方法は知っている方が多い一方で、着信の方法について知らなかったという声が多数寄せられました。このため、日常生活において発信・着信の両方を使いこなせるようになることを目的に企画しました。アシスタントと職員がかけ先の相手役を担い、実際に相手との電話でのやりとりを体験していただきました。一般の電話と同様に、発信・着信ができることが、生活の中でどれほど役立つかを実感していただけたのではないかと思います。

参加者が少ない中、関係4団体からアシスタントのご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

次回のICT講座は6月8日(日)です。皆さんのご参加をお待ちしております。

次回チラシは
こちら

次回申込用
専用フォーム

手話でご案内
しています

聴覚障害者福祉講座

2月25日(火)、聴覚障害者福祉講座を開催しました。今回は、デフリンピアンの早瀬久美氏をお招きし、「東京2025デフリンピックについて学ぼう！」というテーマでお話いただきました。

ちょうどこの2日前に、デフリンピック自転車日本代表の候補内定をいただいたという嬉しいご報告から始まり、デフリンピックの基礎知識や、これまで出場した3大会の経験などを分かりやすくお話いただきました。

東京2025デフリンピックは、11月15日～26日の12日間開催され、70～80か国・地域から約6，000人の参加が予定されています。また、今回は100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。皆で応援していきましょう！

補聴器とコミュニケーションの講座

2月～3月にかけての金曜日4週にわたり、当センターで講座を開催しました。会場参集と、オンライン参加の、ハイブリッド形式で開催しました。オンラインで参加する方が少しずつ増えています。

第1、2回は川崎市総合リハビリテーション推進センター　言語聴覚士の真後理英子氏に補聴器についての説明と、参加者からの質問に答えていただきました。補聴器についてはもちろんたくさんの質問が出ましたが、補助金についてや筆談のコツなど多岐にわたる話となりました。

第3回は特定非営利活動法人川崎市中途失聴・難聴者協会の会員による難聴体験談、読話勉強会、手話勉強会の講師による、読話・手話の体験。理事長から、団体の活動についても写真をたくさん示しながら説明がありました。

第4回は有限会社千里福祉情報センターの聞こえを助ける福祉機器の紹介です。社会情勢によって入手しにくくなる福祉機器もあり、また新しく開発されるものもあり様々です。また形のあるものだけでなく、音声認識アプリなどソフト面で聞こえを助けるツールの紹介もありました。 最後に当センターの事業説明や、難聴者相談、要約筆記の利用を呼びかけました。

会場参集の参加者の半数、オンライン参加者の8割が全回出席で、修了証をお渡ししました。令和7年度は、宮前区(7月)、中原区(9～10月)、幸区(令和8年2月)で開催予定です。

ろう者・難聴者のための健康学習会

3月6日(木)恒例のろう者・難聴者のための健康学習会を開催しました。今回は初めて、当センター以外の外部会場でした。

参加者の集まりやすさを考慮して、武蔵小杉駅近くの川崎市総合自治会館でおこないました(JR武蔵小杉駅、東急東横線・目黒線武蔵小杉駅から徒歩2分)。

今回のテーマは『お薬と上手につきあう～ポリファーマシーって何？～』。「聴覚障害を持つ医療従事者の会」の会員で、横浜市で薬剤師として仕事をされている、森出尚子さんに講師をお願いしました。

ポリファーマシーとは、多くの薬を服用しているために、副作用を起こしたり、きちんと薬が飲めなくなったりしている状態。複数の医療機関から処方される薬が多いと感じている方もいるかもしれません。

ポリファーマシーについて、なぜ薬が多くなってしまうのかなどの講話を聴いた後、グループワークに入りました。自分や家族などでポリファーマシーと思われる問題はないか、聞こえないことによって医療場面で困ることはないか、またその解決策などをろう者グループ(2グループ)、難聴者グループに分かれ、意見交換をし、発表しました。薬の副作用や、飲み忘れ、サプリメントのことなど、様々な意見が出ました。

医療場面では、手話通訳を利用して薬の変更ができた、音声認識ソフトを使っているなどそれぞれの工夫について報告がありました。

年に1回の健康学習会ですが、聞こえないことで健康に関する情報不足に陥らないよう今後も継続して開催していきたいと思います。

音声認識の企画(リスピーク体験とこれまでの振り返り)

令和6年度第2回音声認識技術を活用した情報保障の導入についての検討のための企画を開催しました。

今回も筑波技術大学の井上正之先生、安啓一先生、萩原彩子先生、岡田雄佑先生、大和大学の小林章夫先生にご協力いただきました。

前半は「リスピーク方式による文字起こしデモンストレーション」ということで、音声認識による文字起こし方法の1つとしてのリスピークを実際行ってみました。題材は2つの動画で、1つは1人の方が話す講演会場面、もう1つは3人の方が交互に話す座談会場面。話者が1人の場合は、比較的やりやすかったようで、認識率も高い結果でした。複数の話者の場合は、事前準備として「話者名／」を単語登録して行いましたが、会話のスピードになかなか追いつけず、苦戦していた様子でした。実際リスピークをしてみて、その結果を難聴者が見ての感想や、リスピーカーの立場からの感想などを話し合いました。

後半は「音声認識技術を活用した情報保障　ーこれまでの振り返りと今後に向けてー」ということで情報保障として活用が生かされることが見込まれる、講演形式の場面でどのようなことを考えなければならないのか、難聴者のニーズ、通信環境、必要な知識や技術について振り返りました。

この企画も6回目となります。これまで音声認識についての基礎的な学習、情報保障に活用するために誤変換の修正と、リスピークの体験を重ねてきました。今後はこれまでの積み重ねをどう生かしていくのかが問われてきます。引き続き検討を続けていきたいと思います。

【手話】養成講座

3月に令和6年度の手話講座3本が閉講を迎えました。

手話奉仕員養成講座＜入門編＞【単発コース】(3月12日閉講)では、昨年10月から約5ヶ月間にわたり、初めて学習される方々が手話ネイティブのろう講師との会話を通じて手話を学ばれました。音声のない教室で新しい言葉を学ぶ経験は戸惑いから始まりながらも、多くの方に楽しく終えていただけたようです。修了者は15名でした。

手話奉仕員養成講座【通年コース】(3月29日閉講)は昨年5月から約1年にわたる講座でした。手話通訳者を目指して学び始める初心者向けの講座です。ろう講師とのやりとりを通して手話の難しさ、会話が成立した時の喜びなど、いろいろな感情の湧く時間となったようです。今後進まれる道はそれぞれですが、学習を続け、将来手話通訳者として活動する方が一人でも多く誕生することを願います。修了者は13名でした。

手話通訳者養成講座＜通訳Ⅰ＞(3月22日閉講)は昨年7月からの通訳者養成一段階目となる講座。奉仕員養成とは違う新たな段階に入り、受講生の皆さんの苦労も大きかったようです。カリキュラムの関係で講座の時間数が限られていること、講座以外に手話に触れる機会がなかなか持てないことなど、通訳者になるための学習環境は厳しいかと思いますが、手話についての知識と実践を結び付けながら、進んでいただきたいと思います。

令和7年度も各講座が順次スタートします。当センターのHPでご案内しますので、受講をお考えの方はご確認ください。

【手話】現任研修

3月14日(金)の現任研修は、当センターが作成した聞き取り課題をもとに、通訳の対象者であるろう者に正しいメッセージを伝えられているかを登録者の皆さんと一緒に考えました。

課題は、病院での診察場面です。医師とろう者とのやり取りの中で、医師が実際によく使う言い回しや、とっさの翻訳が難しい日本語を盛りこんだ場面を準備しました。

登録者の皆さんにはZoomで課題を実施してもらい、レコーディングした自分の動画、またろう者の通訳モデルを事前に見た上で、研修に臨んでいただきました。

手話通訳はほとんどの現場を一人で担うということもあり、自身が行った翻訳や行動を客観的に検証する機会は多くはありません。今回の研修では、実際に自分が行った通訳を、ろう者のコメントもいただきながら振り返ることができました。登録年数別の少人数グループに分けて実施したことで、意見交換の場ともなったようです。

研修を通して、等価に翻訳することの難しさ、自分が現場で行っている通訳が、実際はどのようにろう者に届いているのか考えることの大切さなどをあらためて感じていただけたのではないでしょうか。

研修実施にあたり、特定非営利活動法人川崎市ろう者協会にご協力いただきました。ありがとうございました。

令和7年度も、手話や通訳について振り返る機会となるような研修を行っていければと思っています。

【要約】現任研修

3月12日(水)、「要約筆記者の説明力をつけよう」と題して、令和6年度登録要約筆記者研修(センター担当)を実施しました。

派遣現場では要約筆記者が関係者等から、聴覚障害、情報保障等について質問を受けることがあります。主催者や対象者、派遣元につなぐという基本は押さえながらも、要約筆記者として適切な情報提供が行えることを目的に企画しました。

参加者は21名で6グループに分けました。A、B、Cの異なる場面で2問ずつ、計6問の質問に対して、1分以内でどのように説明するかを考え、話すという方法にしました。

まずは個人ワークで6問の説明を考え、グループメンバーに1人ずつ交代しながら説明します。次にグループ内で出た説明を1分で全体に説明できるようにまとめていただき、グループ発表で共有しました。職員から講評を行い、ケースごとに席替えをしてグループメンバーを変えるようにしました。1分で説明しようとされている様子やまとめに向けて参加者の皆さんが(席替えをしても)活発に意見を交わしていたのが印象的でした。「要約筆記者の説明力」と題しながらも、担当者自身の説明力も問われた研修でしたが、今年度も登録要約筆記者の皆さんと一緒に切磋琢磨できるような研修を企画できればと思います。

手話通訳者全国統一試験結果

昨年12月に実施した2024(令和6)年度手話通訳者全国統一試験の結果、2名の方が合格されました。受験者の皆さん、本当におつかれさまでした。また、養成講座にご協力をいただきました、特定非営利活動法人川崎市ろう者協会、川崎市登録手話通訳者団の皆さま、ありがとうございました。合格された2名の方には、4月の新登録研修を受けた後、川崎市登録手話通訳者として活動していただきます。手話通訳者としての第一歩を、不安を抱えながらも踏み出されたところかと思います。これから、通訳とは何か、一緒に考え歩んでいければ幸いです。

全国統一要約筆記者認定試験結果

2月16日(日)に全国統一要約筆記者認定試験が行われ、手書き4名、パソコン1名の計5名の方が合格されました。おめでとうございます。合格された方々には、川崎市登録要約筆記者として登録いただき、中途失聴・難聴者のための情報保障者として、ご活躍いただくことになります。さっそく4月には新登録研修を実施いたしました。

当センターは、団体当事者の事務所と同じ建物にあり、中途失聴・難聴者の皆さまと交流しやすい環境にあるかと思います。難聴者の暮らしに寄り添いながら登録活動を続けていただけたら嬉しく思います。

センターまつり予告

5月25日(日)10時～15時、第18回川崎市聴覚障害者情報文化センターまつりを開催します！

手話体験や要約筆記体験、東京2025デフリンピックPRコーナー、聴覚障害者福祉機器展、子ども向け企画、聞こえ・薬剤師・弁護士相談など多くの企画を予定しています。

また、当センター1階の井田老人いこいの家では、以下の企画を予定しています！

◎デフ・パペットシアター・ひとみパフォーマンス

10:30～ 12:30～ 各回30分

◎特定非営利活動法人川崎市ろう者協会 手話で絵本の読み聞かせ

11:30～ 13:30～ 各回10分

また、今年も先着100名様にわたあめをプレゼント予定です。

入場無料、どなたでもご参加いただけます。皆さまのご来場をお待ちしています！

ビデオ通信　９３

●貸出ベスト５
（２０２５年１月１日から
３月３１日）

順位	ジャンル別	本数
１位	センター制作分	32 本
２位	映画･ドラマ	24 本
３位	記録･報道	１本
３位	子ども･アニメ	１本
３位	手話学習	１本

●データ紹介

	来所者数	ビデオ貸出数
１月	750	26
２月	764	23
３月	890	10
合計	2,404	59

＜休館日のお知らせ＞
休館日は毎週月曜日と祝祭日です。月曜日が祝祭日の場合は、翌日の火曜日も休みとなります。(■休館日)

2025 年５月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2025 年６月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2025 年７月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

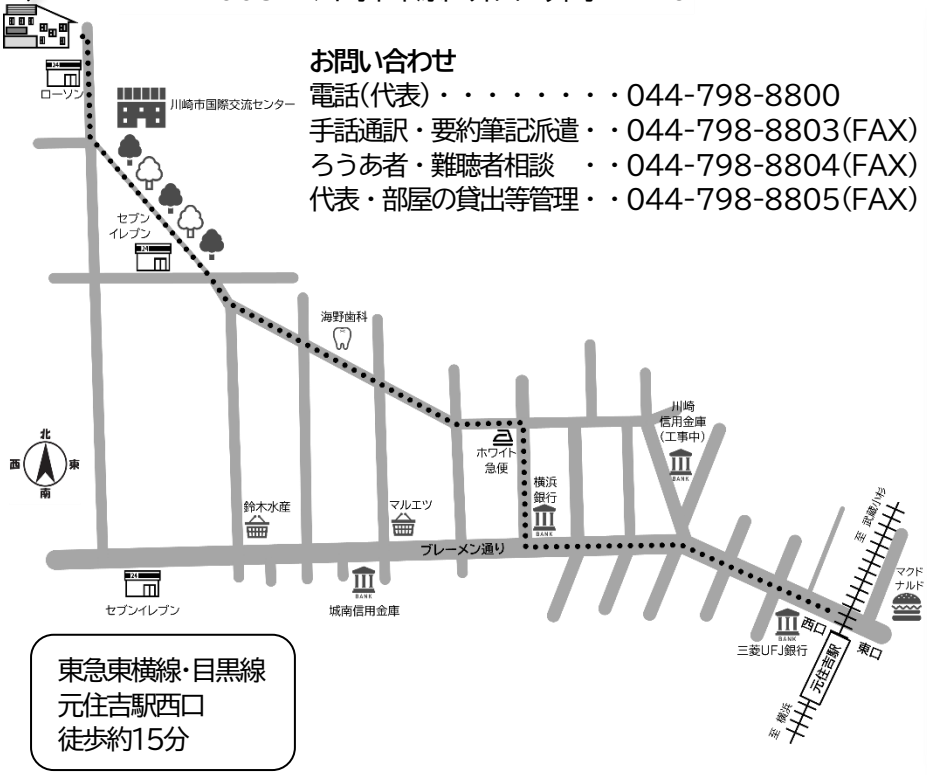
2025年8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8月 24 日全館清掃(休館)

川崎市聴覚障害者情報文化センター

〒211-0037　川崎市中原区井田三舞町 14-16



東急東横線･目黒線
元住吉駅西口
徒歩約15分

※当センターに駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください

お問い合わせ
電話(代表)・・・・・・・・・044-798-8800
手話通訳・要約筆記派遣・・044-798-8803(FAX)
ろうあ者・難聴者相談　・・044-798-8804(FAX)
代表・部屋の貸出等管理・・044-798-8805(FAX)

ホームページ
http://www.joubun.net/

公式 LINE ID
@361knuro

X(旧ツイッター)